

今月号の

締め一杯

白河は全国的にも知られるラーメン処で、市内には100軒を超す店が点在しています。ラーメンへのこだわりを持ち、おいしさを追求する店主たちの思いを紹介します。

第8回

火風鼎



住所：鬼越44-16
営業時間：11:00 ~ 16:00 (品切れ次第終了)
定休日：火曜日 (祝日の場合は営業)

昭和55年、白三小の近く、東前町で創業した火風鼎。その後白河駅前で13年間営業し、平成7年に現在の場所に店舗を移転しました。店主は小白井邦夫さん(66歳)。妻の京子さん、娘の陽子さんと一緒にお店を切り盛りしています。寿司屋で修業していた30代にラーメン作りを研究、その後自分のお店を構えました。「最初は全然売れなかった」と当時を振り返る小白井さん。日々の研究と、試行錯誤を重ね、自分が自信をもっておいしいと思える味にたどり着きました。おすすめはチャーシューメン。新鮮な鶏がらから作るスープに、歯ごたえのある手打ち麺がよくあいます。こだわりの麺はその日の早朝、気温や湿度にあわせ、微妙に水分を調整しながら、その日の分だけを仕込みます。時間をかけ炭火で仕上げる自慢のチャーシューは、口に入れた瞬間、しっとりとした肉の舌触りとともに、炭火の香ばしい風味が広がります。「健康が第一。大好きな白河の地で、少しでも長く自慢のラーメンを作り続けたい」と笑顔で話してくれました。

人物Report

~注目のあの人を紹介~

うぬま りくくん
鵜沼 利久くん

10月に行われた、いわて国体「少年男子個人ロードレース(104km)」で、準優勝を果たした鵜沼利久くん(白河実高3年)。約90人が1周13.4km、計104kmでタイムを競い、鵜沼くんのタイムは、優勝者とわずか0.3秒の僅差でした。

昨年のインターハイでの悔しさをバネに、厳しい練習に耐え、国体で全国2位の結果を残すまでに成長しました。「今回の結果は悔しいが、次こそトップを狙いたい」と、すでに次の目標へ走り出している鵜沼くん。「夢はオリンピック。まずは大学で1番になりたい」と力強く語ってくれました。



《白河市ホームページ》



最新の情報をチェック

《マチイロ(旧i広報紙)》



アプリで情報チェック

《白河市公式ページ》



旬な話題をチェック

「広報白河」は、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用しています。